

2022年度第3四半期 決算説明資料

2023年2月8日

旭化成株式会社

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。
また、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

説明のポイント

AsahiKASEI

2022年度第3四半期実績

- 売上高は為替の円安影響や石化製品市況の高騰等により増収、第3四半期累計として過去最高
- 一方、営業利益は半導体不足の長期化、中国ロックダウン、景気後退等による需要減速に加え、原燃料価格高騰の影響や、「ヘルスケア」における前年同期の一時的なプラス要因および買収等の影響により、減益

2022年度通期予想

- 2022年11月の通期予想発表時の想定以上に厳しい経営環境を踏まえ、下方修正。前期比では、「住宅」が堅調に推移する一方、「マテリアル」は基盤マテリアル事業やセパレータ事業を中心に減益、「ヘルスケア」はクリティカルケア事業の利益回復の遅れによる減益を見込み、全社では減益を見込む
- 原燃料コストの価格転嫁、コストダウン、適正水準の在庫管理等を徹底し、影響の抑制に努める一方、中計で掲げている事業ポートフォリオ転換の加速を図る

株主還元

- 2022年度の年間配当は36円を予想（変更なし）

中計の取り組みの進捗

- バイオ医薬品CDMOの米国Bionova Scientific社における能力増強を決定

2

2022年度第3四半期実績は、売上高は第3四半期累計として過去最高となったが、営業利益は前年同期比で減益となった。「マテリアル」で需要が想定以上に落ち込んだことや、「ヘルスケア」で前年同期に特殊事情による一時的なプラス要因があったこと等が減益の理由だ。

2022年度通期予想についても、前期比で減益を予想する。「住宅」が堅調に推移する一方、「マテリアル」は需要減により減益、「ヘルスケア」もクリティカルケア事業において利益回復が若干遅れていることから減益を見込む。原燃料コストの価格転嫁、コストダウン、キャッシュ・フローの適切な管理を徹底し、影響の抑制に努めていく。

株主還元については、中期的な見通しに基づき配当水準の安定的向上を図るという方針の下、1株当たり年間配当金の予想は今回変更せず、36円としている。中計に関する取り組みの進捗については、バイオ医薬品CDMOの米国Bionovaの能力増強を決定した。

経営環境に関する足元の状況と今後の見通し

AsahiKASEI

- ▶ 経営環境の悪化に対し、原燃料コストの価格転嫁、コストダウン、適正水準の在庫管理、部材調達管理の強化等を徹底し、影響の抑制に努める

セグメント	2022年度第3四半期（対第2四半期）	第4四半期以降の想定	
マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> 世界的な景気後退を受け、基盤マテリアル事業の製品等の需要が減少し、アクリロニトリル等石化製品市況も下落 原材料価格は一部下落するも、エネルギーコストは全体的に高水準 	<ul style="list-style-type: none"> 低水準の需要が継続し、石化製品市況も軟調 原材料価格は一部更に下落するも、エネルギーコストは全体的に高水準が継続 	
	自動車市場関連	<ul style="list-style-type: none"> 半導体不足の自動車生産への影響は、セパレータ、自動車内装材は緩やかに改善傾向だが、エンジニアリング樹脂の需要は減少 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に緩やかな改善を見込む
	電子機器・半導体市場関連	<ul style="list-style-type: none"> 世界的な景気後退や中国のロックダウン等による消費活動のスローダウンにより電子部品・電子材料の需要が減少 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に需要は低水準
住宅	<ul style="list-style-type: none"> 建築請負部門、建材事業を中心に、鋼材等の資材価格が高水準 北米事業において、ローン金利上昇に伴うキャンセルを背景とした一時的な着工戸数減により、工事件数が減少 	<ul style="list-style-type: none"> 資材価格は高水準が継続 北米事業の工事件数は減少傾向が継続 	
ヘルスケア (クリティカルケア事業)	<ul style="list-style-type: none"> 除細動器の半導体等の部材調達難による影響は改善が継続 景気後退を背景として北米を中心に医療機関向け除細動器の受注が減少 	<ul style="list-style-type: none"> 部材調達難の影響は改善が継続 医療機関向け除細動器の受注は改善を見込む 	

3

現在の経営環境と今後の見通しについてご説明する。

「マテリアル」に関しては、第3四半期は景気後退に伴い石油化学関連事業全般において市況下落や需要減の影響を大きく受けており、この状況が第4四半期も続くと考えている。自動車市場関連では半導体不足による自動車減産の影響が徐々に改善しているが、電子機器・半導体市場関連では、世界的な景気後退の影響で需要が全般的に減少している。これらの状況についても、第4四半期に向けて継続すると考えている。

「住宅」に関しては、建築請負部門の受注が若干低迷している状況に加え、資材価格の高騰が継続すると見ている。また、北米事業においても着工件数の伸びが若干鈍化している。

「ヘルスケア」に関しては、クリティカルケア事業における除細動器の部材調達難の影響は、想定よりも緩やかなスピードながら改善している。一方で、景気後退を背景に特に北米で医療機関向け除細動器の受注が減少している。第4四半期にかけては、部材調達難の改善の継続に加え、医療機関からの受注も改善していくと考えている。

このような厳しい経営環境の中、コストダウンを含め適切な事業運営を図り、収益改善に努めていく。

1. 2022年度第3四半期実績

P6	第3四半期累計実績（連結）
P7	第3四半期累計実績（前年同期比）
P8～10	売上高・営業利益の増減内訳
P11	第3四半期累計 営業利益動向（前年同期比）
P12	海外売上高
P13	連結損益計算書
P14	特別損益
P15	連結貸借対照表
P16	連結キャッシュ・フロー計算書

2. 2022年度通期予想

P18	通期予想（連結）
P19～21	通期予想（営業利益の推移／前期比／前回予想比）
P22～23	通期予想 売上高・営業利益予想（事業別）
P24	通期予想 営業利益差異（前回予想比）
P25	参考）リチウムイオン電池用セパレータの販売数量の動向
P26	参考）クリティカルケア事業の売上高・営業利益の動向
P27	株主還元

3. 参考資料

P29	開示区分の変更（2022年4月以降）
P30～35	セグメント別概況
P36	主なM&A案件（2021年4月以降）
P37	トピックス（2022年4月以降）
P38～39	四半期売上高・営業利益推移（2019年度以降）
P40	注記
P41	IRカレンダー



1. 2022年度第3四半期実績

第3四半期累計実績（連結）

AsahiKASEI

- 売上高は為替の円安影響や石化製品市況の高騰等により全セグメントで増収
- 一方、営業利益は半導体不足の長期化、中国ロックダウン、景気後退等による需要減速に加え、原燃料価格高騰の影響や、「ヘルスケア」における前年同期の一時的なプラス要因および買収等の影響により、減益
- 四半期純利益は、営業利益の減少に加え、前年同期にVeloxis再編に伴う税金費用軽減の一部を計上した影響や政策保有株式売却益の減少等により減益

		2021年度 4-12月	2022年度 4-12月	増減額	前年同期比 増減率
売上高	(億円)	18,248	20,404	2,157	11.8%
営業利益	(億円)	1,741	1,163	-577	-33.2%
売上高営業利益率		9.5%	5.7%		
EBITDA	(億円)	2,837	2,469	-367	-12.9%
売上高EBITDA率		15.5%	12.1%		
親会社株主に帰属する 四半期純利益	(億円)	1,407	660	-746	-53.0%
相場平均為替レート (USD/円)		111円	137円		
相場平均為替レート (ユーロ/円)		131円	141円		
国産ナフサ価格		54,000円/kg	80,000円/kg		
1株当たり配当金		17円	18円		

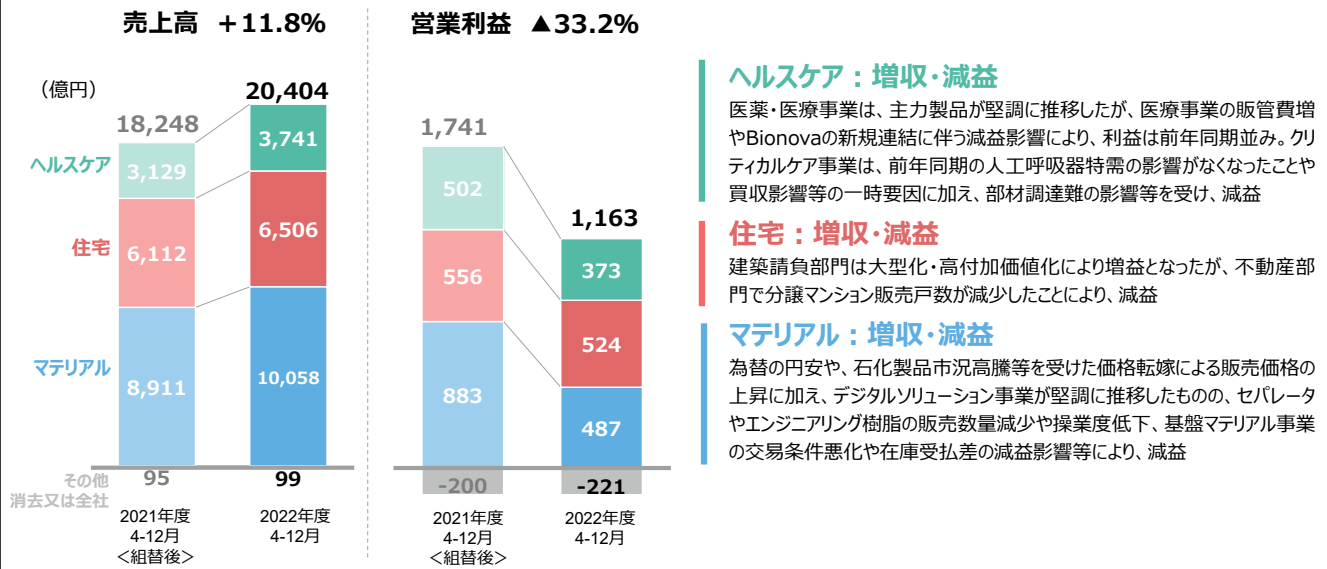
6

2022年度第3四半期累計実績についてご説明する。売上高は2兆404億円で、前年同期比+11.8%の増収となった。それに対し、営業利益は1,163億円で-33%の減益、親会社株主に帰属する四半期純利益は660億円で-53%の減益となった。

第3四半期累計実績（前年同期比）

AsahiKASEI

➤ 経営環境の悪化や「ヘルスケア」の前年同期の一時要因等により、「マテリアル」と「ヘルスケア」を中心に減益



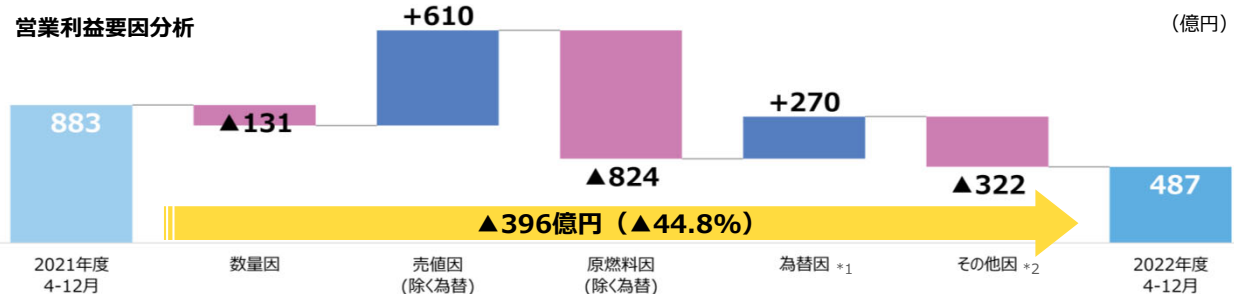
前年同期比の動向をセグメントごとにご説明する。「ヘルスケア」は前年同期にあった特殊要因がなくなったこと等により減益となった。「住宅」はほぼ前年同期並みに推移している。「マテリアル」は全般にわたり景気後退の影響を受け減益となった。

マテリアル 売上高・営業利益の増減内訳

AsahiKASEI

- 価格転嫁の推進や為替の円安による売値因のプラスが原燃料価格高騰による原燃料因のマイナスを打ち消したが、数量因やその他因（在庫影響、操業度差、固定費等）のマイナスにより減益

営業利益要因分析



売上高・営業利益増減内訳

		2021年度 4-12月 <組替後>	2022年度 4-12月	増減額	増減率	内訳				
						数量因	売値因 (除く為替)	原燃料因 (除く為替)	為替因 ^{*1}	その他因 ^{*2}
マテリアルセグメント	売上高	8,911	10,058	1,147	12.9%	-563	610	-	557	543
	営業利益	883	487	-396	-44.8%	-131		-824	270	-322
環境ソリューション	売上高	3,855	4,280	426	11.0%	-305	409	-	179	143
	営業利益	426	100	-327	-76.6%	-109		-834	129	78 *3
モビリティ&インダストリアル	売上高	2,325	2,861	537	23.1%	-184	164	-	236	321
	営業利益	187	96	-91	-48.7%	15		-188	54	-137
ライフソリューション	売上高	2,727	2,912	185	6.8%	-74	37	-	142	80
	営業利益	299	273	-26	-8.8%	-37		-32	87	-81
マテリアル共通	売上高	5	5	-0	-5.5%	-0			-	-
	営業利益	-29	19	48	-			230 *3		-182

*1 売値因・原燃料因に関連する為替因 *2 為替換算差、固定費差、在庫影響等 *3 環境ソリューションの営業利益の「その他因」の中の社内売値差をマテリアル共通の原燃料因に付け替えて表示

8

各セグメントの前年同期比における営業利益増減要因分析についてご説明する。

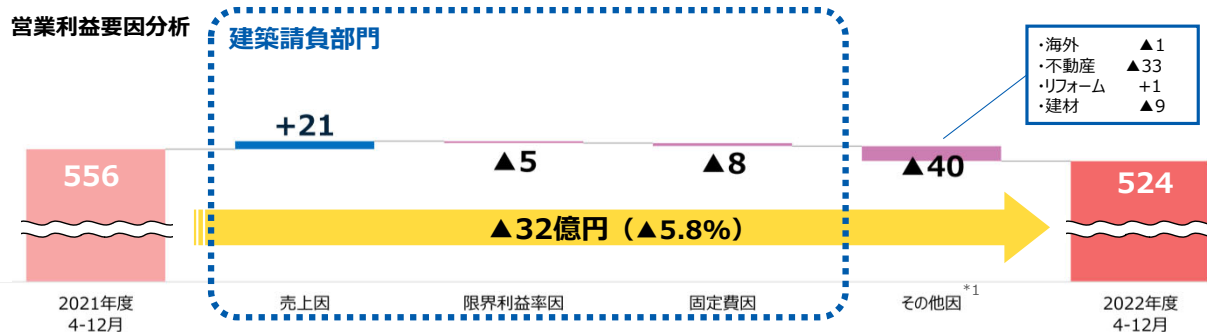
「マテリアル」は、数量因で131億円のマイナスとなった。売値因、原燃料因、為替因を合算すると56億円のプラスとなっており、これは原燃料価格高騰に対して価格転嫁を進めた結果である。その他差が322億円のマイナスとなっているのは、販売数量減少に伴う工場の稼働率の低下に加え、在庫受払差によるものだ。2022年度は期首に原料価格が高かったため在庫受払差でマイナスが生じているが、販売数量が低調に推移し、在庫水準が通常よりやや高い状態であるため、その影響が長引いている。

住宅 売上高・営業利益の増減内訳

AsahiKASEI

- 建築請負部門は物件の大型化・高付加価値化による売上因のプラスで資材価格高騰の影響をカバーしたが、不動産部門の分譲マンションの販売戸数減少により、減益

(億円)



売上高・営業利益増減内訳

		2021年度 4-12月 ＜組替後＞	2022年度 4-12月	増減額	増減率	内訳			
						売上因	限界利益率因	固定費因	その他因 ^{*1}
住宅セグメント	売上高	6,112	6,506	393	6.4%	68	-	-	325
	営業利益	556	524	-32	-5.8%	21	-5	-8	-40

*1 不動産、リフォーム、海外、建材等

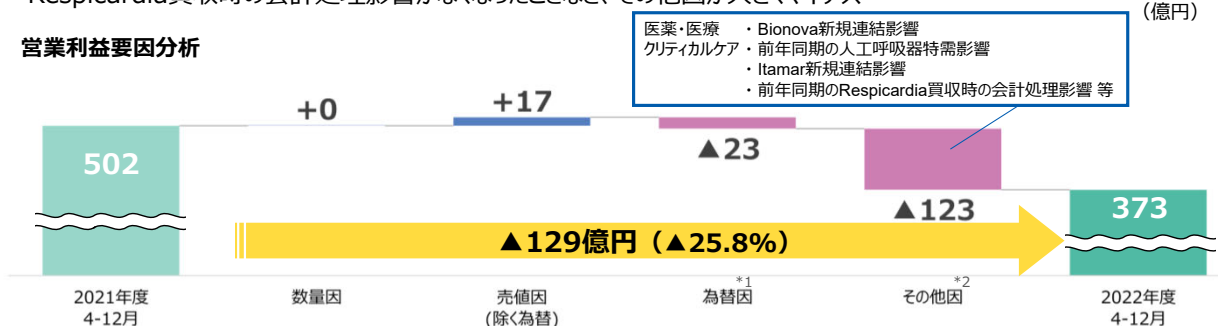
9

「住宅」は、建築請負部門において工事数量が減少したものの、物件の大型化や高付加価値化により平均単価が上昇し、売上因はプラスとなった。その他因が40億円のマイナスとなっているが、内訳としては不動産部門の33億円のマイナス要因が大きい。ただしこれは分譲マンションの販売のタイミングによるもので、需要が減少したということではない。セグメント全体としては、ほぼ堅調な推移である。

ヘルスケア 売上高・営業利益の増減内訳

➤ 医薬・医療事業は、主力製品が販売を伸ばし数量因がプラスとなる一方でBionovaの新規連結による減益影響があり、クリティカルケア事業は、数量因のマイナスに加えて、前年同期の人工呼吸器特需の影響やItamarの新規連結影響、Respicardia買収時の会計処理影響がなくなったことなど、その他因が大きくマイナス

営業利益要因分析



売上高・営業利益増減内訳

		2021年度 4-12月	2022年度 4-12月	増減額	増減率	内訳			
						数量因	売値因 (除く為替)	為替因 ^{*1}	その他因 ^{*2}
ヘルスケアセグメント	売上高	3,129	3,741	612	19.6%	12	17	-23	606
	営業利益	502	373	-129	-25.8%	0	17	-23	-123
医薬・医療	売上高	1,321	1,534	213	16.1%	105	-13	2	119
	営業利益	225	224	-1	-0.4%	68	-13	2	-57
クリティカルケア	売上高	1,808	2,207	399	22.1%	-93	30	-25	487
	営業利益	277	148	-128	-46.4%	-67			-66

*1 売値因に関連する為替因 *2 為替換算差、固定費差、ライセンス・導入・導出等の一時収益・費用、新規連結等

「ヘルスケア」は、その他因の123億円のマイナスが大きく、その主な内容を記載している。医療事業では、Bionovaの新規連結影響があった。クリティカルケア事業では、前年同期の人工呼吸器特需影響やRespicardia買収の会計処理影響によるプラス影響が無くなったことに加え、Itamarの新規連結影響があった。

第3四半期累計 営業利益動向（前年同期比）

AsahiKASEI

利益動向		主な営業利益増減要因	
マテリアル	環境ソリューション	↓	【セパレータ】 中国の景気後退や自動車減産の影響により、民生用途・車載用途ともに需要が減少し減益 【基盤マテリアル】 原燃料価格高騰を受けた交易条件の悪化や在庫受払差の利益減少等により減益（アクリロニトリルの原料市況リンクの販売価格フォーミュラの適用進展により減益幅を抑制）
	モビリティ & インダストリアル	↓	【自動車内装材】 原燃料価格の高騰に伴い交易条件は悪化した。自動車減産の影響が改善したこと等を受けて需要が増加し増益 【エンジニアリング樹脂】 自動車減産の影響の長期化や家電・OA機器向けの需要の減少により減益
	ライフィノベーション	→	【デジタルソリューション】 22/3Qでの需要減の影響により販売数量が減少したが、上期の半導体市況の活況や為替の円安影響等により前年同期比並み
住宅	住宅	↓	【建築請負】 資材高騰の影響を受けたが、物件の大型化・高付加価値化による平均単価の上昇により増益 【海外】 北米事業は新規連結による増益影響（Brewer社、Focus社）により増益となったが、豪州事業が資材・労務費高騰影響により減益となり、前年同期並み 【不動産】 分譲マンションの販売戸数減少により減益
ヘルスケア	医薬・医療	→	【医薬】 活動強化や導入費用等の販管費が増加したが、Envarsus XRやテリボン等の主力製剤が販売量を伸ばし、ライセンス収入も増加したことから増益 【医療】 円安による為替換算差のプラス等がある一方、Bionovaの新規連結による減益影響や原燃料価格高騰により減益
	クリティカルケア	↓	【除細動器】 前年同期の人工呼吸器特需の影響がなくなったことに加え、部材調達難の影響による販売数量の減少や調達費用の増加により減益 【Life Vest】 保険償還状況の改善や円安による換算差等により増益 【その他】 前年同期のRespicardia買収時の会計処理影響がなくなったことや、Itamar新規連結等の減益要因あり

海外売上高

AsahiKASEI

	2021年度4-12月<組替後>		2022年度4-12月		前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
	海外売上高	海外売上高比率	海外売上高	海外売上高比率		
マテリアルセグメント	5,338	59.9%	5,951	59.2%	613	11.5%
環境ソリューション	2,343	60.8%	2,368	55.3%	25	1.1%
モビリティ&インダストリアル	1,778	76.5%	2,287	79.9%	508	28.6%
ライフソリューション	1,212	44.4%	1,291	44.3%	79	6.5%
マテリアル共通	5	100.0%	5	100.0%	-0	-5.5%
住宅セグメント	1,103	18.0%	1,495	23.0%	392	35.5%
住宅	1,103	18.9%	1,495	24.1%	392	35.5%
建材	-	-	-	-	-	-
ヘルスケアセグメント	2,352	75.2%	2,913	77.9%	561	23.9%
医薬・医療	562	42.6%	739	48.2%	177	31.5%
クリティカルケア	1,790	99.0%	2,174	98.5%	384	21.5%
その他	7	7.0%	7	7.4%	1	10.5%
合計	8,800	48.2%	10,366	50.8%	1,566	17.8%
地域別海外売上高						
アジア	3,912	21.4%	4,157	20.4%	245	6.3%
(内、中国)	1,821	10.0%	1,946	9.5%	125	6.9%
米州	2,870	15.7%	3,798	18.6%	928	32.3%
欧州	1,111	6.1%	1,259	6.2%	148	13.3%
その他海外	907	5.0%	1,153	5.6%	245	27.1%

12

連結損益計算書

AsahiKASEI

前年同期比の主な増減要因

- 販管費 : 円安により海外子会社の販管費の換算額が増加した他、新規連結因などにより増加
- 営業外損益 : PTT旭ケミカルの利益減少等により持分法投資損益が悪化
- 特別損益 : 政策保有株式の売却益の減少、火災損失の計上、段階取得に係る差益の減少等により利益が減少

(億円)

	2021年度		2022年度		増減額	増減率
	4-12月	売上高比率	4-12月	売上高比率		
売上高	18,248	100.0%	20,404	100.0%	2,157	11.8%
売上原価	12,357	67.7%	14,427	70.7%	2,070	16.7%
売上総利益	5,890	32.3%	5,977	29.3%	87	1.5%
販管費	4,149	22.7%	4,814	23.6%	664	16.0%
営業利益	1,741	9.5%	1,163	5.7%	-577	-33.2%
営業外損益	102		-44		-146	
(内、持分法投資損益)	(77)		(15)		(-62)	
経常利益	1,842	10.1%	1,119	5.5%	-723	-39.2%
特別損益	16		-89		-105	
税前利益	1,858	10.2%	1,030	5.0%	-828	-44.5%
法人税等	-434		-360		74	
非支配株主に帰属する四半期純利益	-17		-10		8	
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,407	7.7%	660	3.2%	-746	-53.0%

13

損益計算書において、営業外損益は2022年度第3四半期累計で44億円の赤字となっており、前年同期の102億円から146億円悪化した。これにはPTT旭ケミカルの損益悪化を中心とした持分法投資損益の62億円の悪化が大きく影響している。それ以外の営業外損益も、為替差損の計上等により悪化した。

特別損益

AsahiKASEI

(億円)			
	2021年度 4-12月	2022年度 4-12月	増減額
投資有価証券売却益	143	71	-71
固定資産売却益	9	7	-2
受取保険金	-	18	18
段階取得による差益	17	-	-17
特別利益	168	96	-72
投資有価証券評価損	2	17	15
固定資産処分損	53	52	-1
減損損失	4	13	9
火災損失	-	56	56
事業構造改善費用	93	47	-46
特別損失	152	185	33
特別損益	16	-89	-105

14

特別損益は、2022年度第3四半期累計で89億円の損となった。前年同期は16億円の益であり、105億円悪化した。投資有価証券売却益が71億円と前年同期より減少していることに加え、ベンベルグ工場火災に関連する火災損失を計上したことが主な要因だ。

連結貸借対照表

AsahiKASEI

- 総資産 : 円安に伴い海外子会社の資産が増加したことに加え、原燃料価格高騰により棚卸資産が増加
- 負債 : 有利子負債の増加に加え、円安に伴い海外子会社の負債が増加
- 純資産 : 四半期純利益の計上があったほか、円安に伴いその他の包括利益累計額（為替換算調整勘定）が増加

	2022/3月末	2022/12月末	増減額		2022/3月末	2022/12月末	増減額
流動資産	13,342	15,551	2,209	負債	16,303	18,802	2,499
現金及び預金	2,446	2,893	447	流動負債	9,239	10,518	1,280
受取手形、売掛金及び契約資産	4,346	4,609	263	支払手形及び買掛金	1,781	2,036	255
棚卸資産	5,402	6,533	1,131	その他	7,458	8,482	1,025
その他	1,147	1,515	368	固定負債	7,064	8,283	1,219
固定資産	20,149	21,429	1,281	純資産	17,188	18,178	990
有形固定資産	8,052	8,458	406	株主資本	14,594	14,755	161
無形固定資産	8,368	9,225	857	資本金	1,034	1,034	-
投資その他の資産	3,728	3,746	18	資本剰余金	799	798	-0
				利益剰余金	12,823	12,997	173
				自己株式	-62	-74	-12
				その他の包括利益累計額	2,280	3,089	809
				非支配株主持分	314	335	20
資産合計	33,491	36,980	3,489	負債純資産合計	33,491	36,980	3,489
のれん残高	4,313	5,051	738				
有利子負債*1	7,663	10,586	2,923				
D/Eレシオ	0.45	0.59	0.14				

*1 リース債務除く

15

貸借対照表についてご説明する。2022年3月末と2022年12月末を比較すると、総資産は約3,500億円増加している。流動資産が約2,200億円増加しており、特に棚卸資産が1,131億円増えた。在庫削減は進めてきているが、原燃料高騰の影響が出ている。負債は約2,500億円増加した。有利子負債は1兆586億円に増加しており、D/Eレシオは0.14上昇して0.59となった。

連結キャッシュ・フロー計算書

AsahiKASEI

- 営業CF：税金等調整前四半期純利益の減少に加え、棚卸資産の増加やVeloxis再編関連の税金支払の増加等があり、キャッシュ・インが減少
- 投資CF：「マテリアル」を中心とした設備投資による支出の増加等により前年同期比でキャッシュ・アウトが増加
- 財務CF：配当金の支払いの一方、資金調達の実行によりキャッシュ・イン

(億円)

	2021年度 4-12月	2022年度 4-12月	増減額
a. 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,127	12	-1,115
b. 投資活動によるキャッシュ・フロー	-1,753	-2,034	-281
設備投資による支出	-1,109	-1,264	-155
M&A関連による支出	-789	-781	8
その他	145	11	-134
c. フリー・キャッシュ・フロー (a+b)	-626	-2,022	-1,396
d. 財務活動によるキャッシュ・フロー	821	2,329	1,508
e. 現金及び現金同等物に係る換算差額	75	131	56
現金及び現金同等物の増減額 (c+d+e)	270	437	168

16

キャッシュ・フローについてご説明する。棚卸資産の増加等により運転資本が増加したことで、営業活動によるキャッシュ・フローは12億円のキャッシュ・インとなり、前年同期比でキャッシュ・インが1,100億円以上減少した。投資活動によるキャッシュ・フローは2,034億円のキャッシュ・アウトとなり、前年同期比でキャッシュ・アウトが281億円増加した。結果としてフリー・キャッシュ・フローは2,022億円のキャッシュ・アウトとなり、前年同期比でキャッシュ・アウトが約1,400億円増加している状況だ。財務活動によるキャッシュ・フロー等も含め、現金及び現金同等物は437億円増加した。

以上が第3四半期の実績である。



2. 2022年度通期予想

通期予想（連結）

AsahiKASEI

- 引き続き厳しい経営環境を想定し、営業利益は前期比で減益を見込み、前回予想から下方修正。当期純利益はVeloxis再編に伴う税金費用の戻りが2023年度以降にずれ込むこと等で、より大きく下方修正
- 半導体不足影響の長期化や原燃料価格の高止まり、景気後退等の経営環境の変化は今後も注視
- 2022年度の年間配当は36円を予想（5月公表から変更なし）

	2021年度 実績	2022年度			2022年度 予想	増減率	2022年度 前回予想 (2022年11月発表)	増減率
		上期	3Q	下期予想				
売上高 (億円)	24,613	13,512	6,892	13,858	27,370	11.2%	28,510	-4.0%
営業利益 (億円)	2,026	858	305	392	1,250	-38.3%	1,770	-29.4%
売上高営業利益率	8.2%	6.4%	4.4%	2.8%	4.6%		6.2%	
親会社株主に帰属する 当期純利益 (億円)	1,619	517	143	183	700	-56.8%	1,290	-45.7%
EPS (円)	116.68	37.28	10.33	13.18	50.46	-56.7%	92.98	-45.7%
相場平均為替レート (USD/円)	112円	134円	142円	136円	135円		137円	
相場平均為替レート (ユーロ/円)	131円	139円	144円	140円	139円		139円	
国産ナフサ価格	56,700円/kl	83,800円/kl	72,500円/kl	66,900円/kl	75,400円/kl		76,800円/kl	
1株当たり配当金	34円	18円		18円	36円		36円	

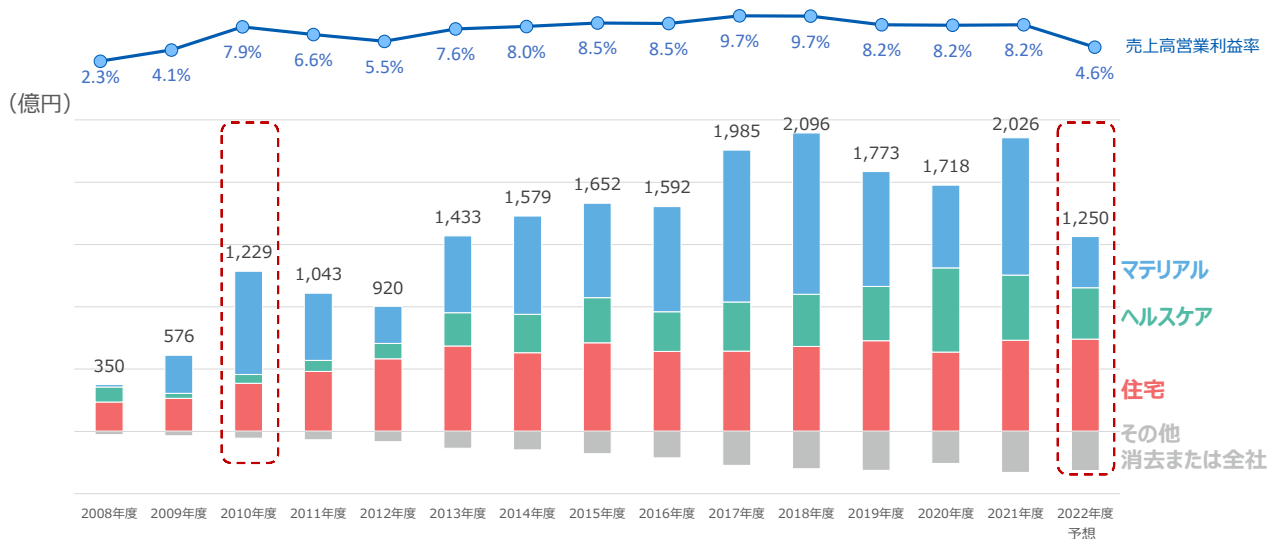
18

2022年度の通期予想についてご説明する。営業利益は1,250億円の予想で、前期比－38%の減益となる見込みだ。2022年11月に発表した前回予想比では－29%の下方修正となる。純利益は700億円で、前期比－57%の減益という予想だ。前回予想比では－45%の下方修正となる。なお前回予想にはVeloxis再編に伴う税金費用の戻りとして158億円の益を織り込んでいたが、時期が後ろ倒しになる見通しとなったため、今回は織り込んでいないことも下方修正の要因の1つだ。

通期予想（営業利益の推移*1）

AsahiKASEI

- 「住宅」の安定的な利益成長や、「ヘルスケア」の利益の拡大により、全社で同等の利益水準であった2010年度と比較して、利益構造はレジリエント化が進んでいる。今後の利益成長には「マテリアル」の稼働力が課題



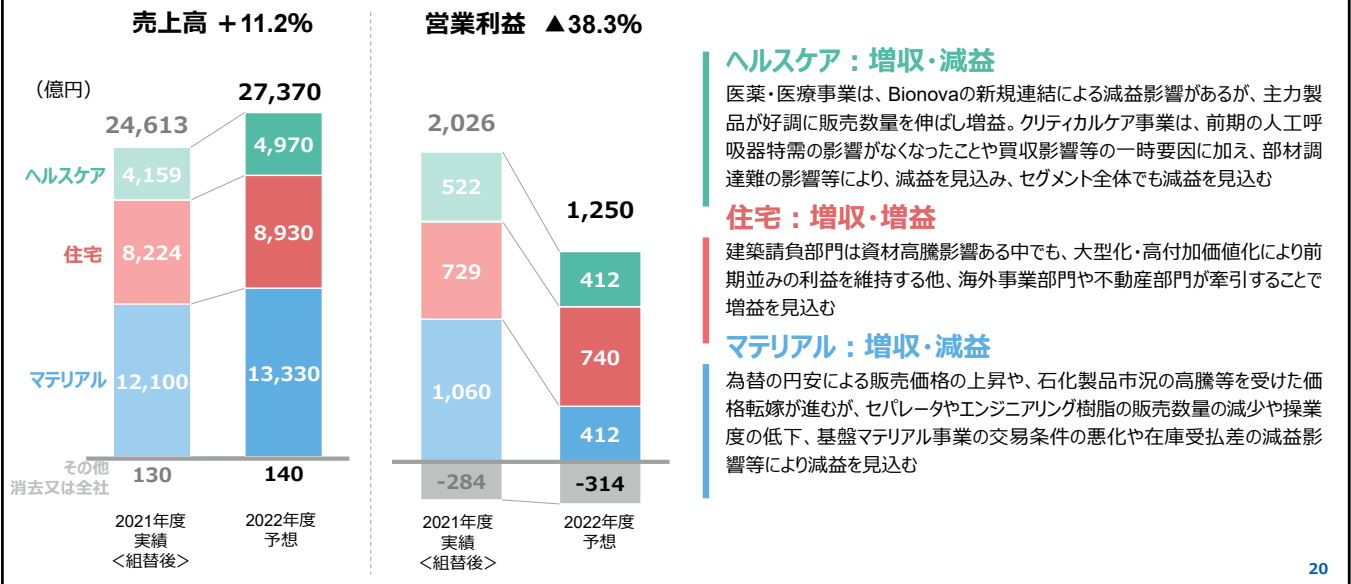
19

過去からの営業利益の推移を示している。売上高営業利益率は長期的に向上してきたが、2022年度は下落する見通しだ。「マテリアル」の損益改善は喫緊の課題であり、抜本的な事業構造改善を急ぐ必要があると認識している。

通期予想（前期比）

AsahiKASEI

➤ 「住宅」が堅調に推移する一方、経営環境の悪化により「マテリアル」「ヘルスケア」の減益を見込む

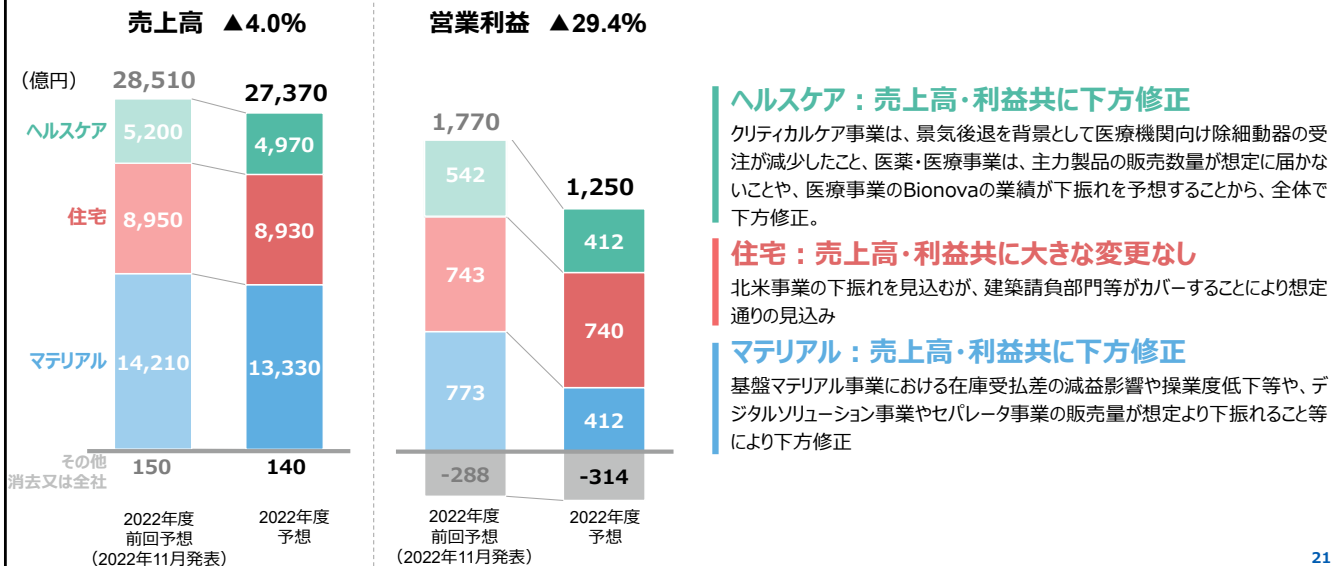


2022年度通期予想について、セグメント別にご説明する。「ヘルスケア」は、前期に特殊要因による一時的なプラス影響が多くあり、2022年度は前期比で減益を見込む。「住宅」は増益の見込みだ。「マテリアル」は、各事業で想定以上に需要が減少していることから、数量差を中心とした収益悪化により、減益となる見込みである。

通期予想（前回予想比）

AsahiKASEI

➤ 「マテリアル」や「ヘルスケア」を中心に経営環境の悪化を受けて、営業利益を下方修正



21

2022年度通期予想について、前回予想との比較でご説明する。「ヘルスケア」は、前回予想では利益成長を見込んでいたが、クリティカルケア事業において部材調達難の改善が想定よりも若干緩やかであることに加え、景気後退を背景として医療機関向け除細動器の需要が減少していることから、下方修正した。「住宅」は予想通り進捗している。「マテリアル」については、需要が大きく減少する中、販売数量の減少および在庫受払差等の減益要因により下方修正した。

通期予想 事業別売上高

AsahiKASEI

(億円)

	上期	下期	2021年度 ＜組替後＞	上期	2022年度 予想		2022年度 予想	前期比 増減率	2022年度 下期予想 -上期	2022年度 前回予想 (2022年11月発表)	前回予想比 増減率
					3Q	下期予想					
マテリアルセグメント	5,759	6,341	12,100	6,788	3,270	6,542	13,330	10.2%	-247	14,210	-6.2%
環境ソリューション	2,482	2,745	5,226	2,913	1,368	2,757	5,670	8.5%	-155	6,090	-6.9%
モビリティ&インダストリアル	1,518	1,703	3,221	1,921	940	1,909	3,830	18.9%	-12	4,040	-5.2%
ライフインノベーション	1,756	1,890	3,646	1,952	960	1,868	3,820	4.8%	-83	4,070	-6.1%
マテリアル共通	3	4	7	3	2	7	10	42.1%	4	10	0.0%
住宅セグメント	3,930	4,295	8,224	4,204	2,301	4,726	8,930	8.6%	521	8,950	-0.2%
住宅	3,758	4,107	7,865	4,010	2,195	4,520	8,530	8.4%	510	8,550	-0.2%
建材	171	188	359	194	107	206	400	11.4%	12	400	0.0%
ヘルスケアセグメント	2,059	2,100	4,159	2,455	1,286	2,515	4,970	19.5%	60	5,200	-4.4%
医薬・医療	853	888	1,742	989	545	1,011	2,000	14.8%	22	2,060	-2.9%
クリティカルケア	1,205	1,212	2,417	1,466	741	1,504	2,970	22.9%	38	3,140	-5.4%
その他	63	67	130	65	34	75	140	7.9%	11	150	-6.7%
合計	11,810	12,803	24,613	13,512	6,892	13,858	27,370	11.2%	345	28,510	-4.0%

通期予想 事業別営業利益







AsahiKASEI

(億円)

	上期	下期	2021年度 ＜組替後＞	上期	2022年度 予想		前期比 増減率	2022年度 下期予想 - 上期	2022年度 前回予想 (2022年11月発表)	前回予想比 増減率	
					3Q	下期予想					
マテリアルセグメント	585	474	1,060	406	81	6	412	-61.1%	-400	773	-46.7%
環境ソリューション	289	200	489	125	-26	-127	-2	-	-252	213	-
モビリティ&インダストリアル	132	125	258	91	5	24	115	-55.4%	-66	164	-29.9%
ライフソリューション	191	157	348	196	77	90	286	-17.9%	-106	386	-25.9%
マテリアル共通	-27	-8	-35	-6	25	19	13	-	24	10	30.0%
住宅セグメント	333	396	729	336	188	404	740	1.5%	68	743	-0.4%
住宅	320	386	706	329	181	396	725	2.7%	67	725	0.0%
建材	12	11	23	7	6	8	15	-34.8%	1	18	-16.7%
ヘルスケアセグメント	343	179	522	258	114	154	412	-21.0%	-105	542	-24.0%
医薬・医療	136	83	218	146	79	77	223	2.2%	-68	256	-12.9%
クリティカルケア	207	96	303	113	35	76	189	-37.7%	-37	286	-33.9%
その他	17	24	41	17	8	16	33	-19.8%	-1	31	6.5%
消去又は全社	-146	-179	-325	-160	-86	-187	-347	-	-27	-319	-
合計	1,131	895	2,026	858	305	392	1,250	-38.3%	-466	1,770	-29.4%

23

通期予想 営業利益差異（前回予想比）

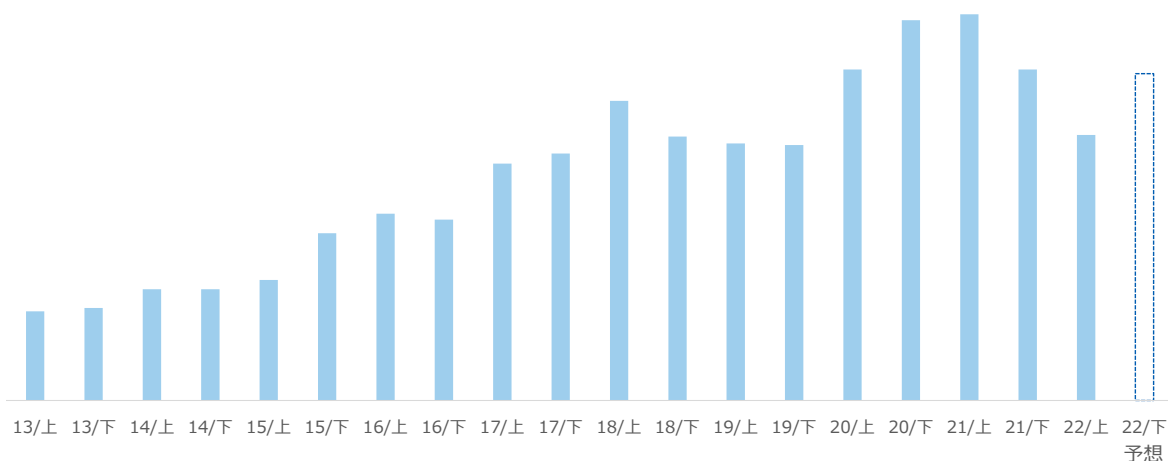
		利益動向	主な営業利益増減要因
マテリアル	環境ソリューション		【セパレータ】 民生用途を中心に需要の回復の遅れや操業度低下により下方修正 【基盤マテリアル】 在庫受払差の減益影響や操業度の低下等により下方修正
	モビリティ & インダストリアル		【自動車内装材】 前回予想通りに推移 【エンジニアリング樹脂】 自動車減産の影響の長期化や景気後退を背景とした家電・OA機器向け等の需要の下振れ、操業度の低下等により下方修正
	ライフイノベーション		【デジタルソリューション】 半導体市況の落ち込みによる電子材料の販売量の下振れや幅広い用途で電子部品の販売量が下振れし下方修正 【コンフォートライフ】 繊維など一部製品の需要の下振れにより下方修正
住宅	住宅		【建築請負】 売上高は下振れるものの、利益率が想定より改善したことや、固定費削減により上方修正 【海外】 北米事業は、キャンセルを背景とした一時的なビルダーの着工数減少の影響が想定より長引いており下方修正 【不動産】 予定される分譲マンション販売の物件構成差により、微かに上方修正
ヘルスケア	医薬・医療		【医薬】 予定したライセンス収入が来期にずれ込むことや、テリボンの販売数量が想定までは届かないことから、下方修正 【医療】 プラバの顧客在庫調整による販売量減や、Bionovaの売上の遅れ等により下方修正
	クリティカルケア		【除細動器】 景気後退を背景として北米を中心に医療機関向け除細動器の受注が減少したことにより下方修正 【Life Vest】 前回予想通りに推移

参考) リチウムイオン電池用セパレータの販売数量の動向

AsahiKASEI

- 市場の拡大に合わせて中長期的に事業拡大を進めてきたが、21年度下期より、半導体不足等を背景とした自動車減産の影響による車載用途の需要減少に加えて、中国の景気後退を背景に民生用途の需要が減少したことで、販売数量が減少
- ただし、22年度下期にかけては、前回想定より民生用途を中心に需要の回復は遅いものの、販売数量の増加を見込む

リチウムイオン電池用セパレータの販売数量の推移（2013年度上期の販売数量を基準）



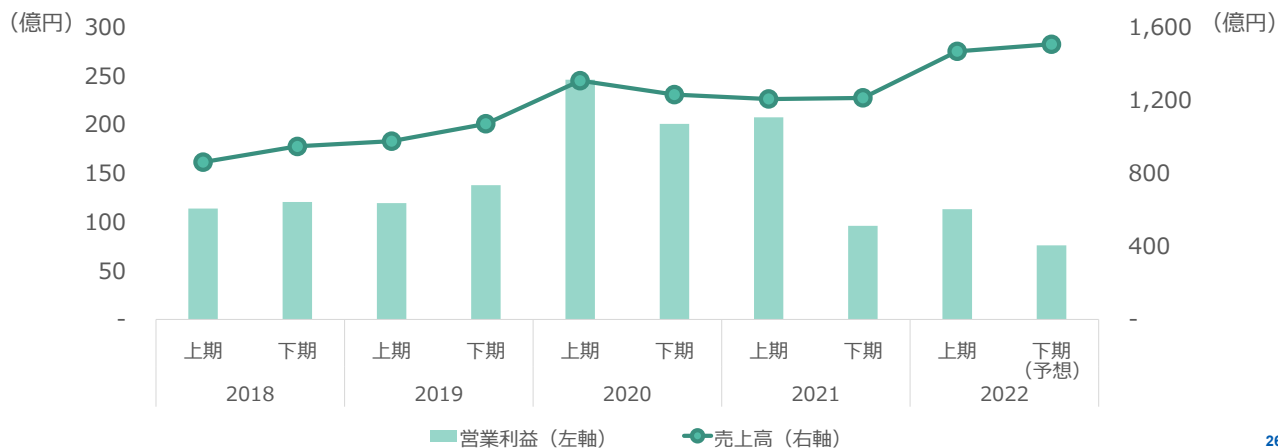
リチウムイオン電池用セパレータの販売数量の動向についてご説明する。2022年度上期は、中国を中心に需要が減退し、パソコン、スマートフォン、タブレット等の民生用途が減少したことに加え、車載用途でも上期までは半導体不足等による自動車減産影響があり、販売数量が減少した。しかし下期にかけて、車載用途は改善の方向である。

参考) クリティカルケア事業の売上高・営業利益の動向

AsahiKASEI

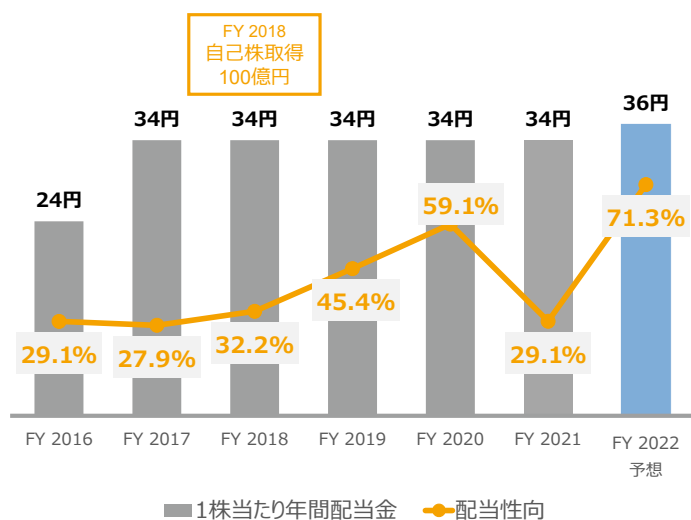
➤ 2021年度下期より部材調達難の影響を受けて除細動器の販売数量の減少や調達コスト上昇があったことに加え、2022年度第3四半期に景気後退を受けて北米を中心に医療機関向け除細動器の受注が減少したこと等により利益が落ち込んだ。ただし、第3四半期から第4四半期にかけては改善を見込む。

- COVID-19感染拡大による人工呼吸器需要増加のプラス影響
- Respicardia買収時の会計処理のプラス影響
- Respicardia連結によるのれん等マイナス影響
- Itamar連結によるのれん等マイナス影響



クリティカルケア事業の売上高・営業利益の動向についてご説明する。2022年度下期は、第3四半期に医療機関向け除細動器の受注が減少し利益が落ち込んだが、第4四半期にかけては徐々に改善を見込む。

➤ 2022年度の年間配当は36円の予想を据え置き



株主還元方針

- 1 中期的なFCFの見通しから、株主還元の水準を判断する
- 2 配当による株主還元を基本とし、1株当たり配当金の維持・増加を目指す
- 3 配当性向30~40% (中計3年間累計) を目安とし、配当水準の安定的向上を図る
- 4 自己株取得は資本構成適正化に加え、投資案件や株価の状況等を総合的に勘案して検討・実施する

株主還元についてご説明する。2022年度の1株当たり年間配当金は、36円の予想を据え置いている。ここに記載している株主還元方針の下、配当は短期的な収益動向にとらわれず、一定程度の水準を維持していきたい。引き続き自己株取得の検討は行うが、2022年度については、着実な配当による還元の実施を考えている。

3. 参考資料

開示区分の変更（2022年4月以降）

AsahiKASEI

セグメント	サブセグメント	事業	
マテリアル	環境ソリューション	セパレータ	
		膜・システム	
		合成ゴム・エラストマー	
	モビリティ&インダストリアル	基盤マテリアル ^{*1}	
		繊維（自動車関連）	
		エンジニアリング樹脂	
		機能性コーティング	
	ライフイノベーション	デジタルソリューション	電子材料 電子部品 UVCプロジェクト
			添加剤
			化薬
		コンフォートライフ	感光材 繊維（衣料・産業資材他） 消費財 旭化成アドバンス ^{*2}
住宅	住宅 建材		
ヘルスケア	医薬・医療 クリティカルケア		
その他			
消去又は全社			

【凡例】

旧 基盤マテリアル

旧 パフォーマンスプロダクツ

旧 スペシャルティソリューション

旧 その他／消去又は全社

*1 一部の製品はモビリティ&インダストリアル事業に移管している。

*2 パフォーマンスプロダクツ事業、マテリアル共通および建材事業に含まれていた旭化成アドバンスの業績を、併せてライフイノベーション事業に含めている。

マテリアルセグメント (売上高・営業利益)

(億円)

売上高	上期	下期	2021年度 ＜組替後＞	上期	2022年度 予想		前期比 増減率	2022年度 前回予想 (2022年11月発表)	前回予想比 増減率	
					3Q	下期予想				
マテリアルセグメント	5,759	6,341	12,100	6,788	3,270	6,542	10.2%	14,210	-6.2%	
環境ソリューション事業	2,482	2,745	5,226	2,913	1,368	2,757	5,670	8.5%	6,090	-6.9%
うち 基盤マテリアル事業	1,547	1,801	3,348	1,874	887	1,796	3,670	9.6%	3,870	-5.2%
モビリティ&インダストリアル事業	1,518	1,703	3,221	1,921	940	1,909	3,830	18.9%	4,040	-5.2%
ライフソリューション事業	1,756	1,890	3,646	1,952	960	1,868	3,820	4.8%	4,070	-6.1%
うち デジタルソリューション事業	593	622	1,214	665	299	575	1,240	2.1%	1,420	-12.7%
マテリアル共通	3	4	7	3	2	7	10	42.1%	10	0.0%
営業利益	585	474	1,060	406	81	6	412	-61.1%	773	-46.7%
環境ソリューション事業	289	200	489	125	-26	-127	-2	-	213	-
うち 基盤マテリアル事業	190	164	354	95	-42	-111	-16	-	133	-
モビリティ&インダストリアル事業	132	125	258	91	5	24	115	-55.4%	164	-29.9%
ライフソリューション事業	191	157	348	196	77	90	286	-17.9%	386	-25.9%
うち デジタルソリューション事業	89	80	169	105	32	46	151	-10.9%	220	-31.4%
マテリアル共通	-27	-8	-35	-6	25	19	13	-	10	29.9%

住宅セグメント（売上高・営業利益）

(億円)										
売上高	上期	下期	2021年度 ＜組替後＞	上期	2022年度 予想		2022年度 予想	前期比 増減率	2022年度 前回予想 (2022年11月発表)	前回予想比 増減率
					3Q	下期予想				
住宅セグメント	3,930	4,295	8,224	4,204	2,301	4,726	8,930	8.6%	8,950	-0.2%
住宅事業	3,758	4,107	7,865	4,010	2,195	4,520	8,530	8.4%	8,550	-0.2%
建築請負部門	1,890	2,145	4,035	1,966	1,082	2,144	4,110	1.9%	4,135	-0.6%
不動産部門	860	965	1,825	811	444	1,074	1,885	3.3%	1,885	0.0%
リフォーム部門	267	257	525	261	140	279	540	2.9%	550	-1.8%
海外事業部門	731	731	1,463	968	527	1,022	1,990	36.1%	1,965	1.3%
その他	9	9	18	4	2	1	5	-72.3%	15	-66.7%
建材事業	171	188	359	194	107	206	400	11.4%	400	0.0%
営業利益	333	396	729	336	188	404	740	1.5%	743	-0.4%
住宅事業	320	386	706	329	181	396	725	2.7%	725	0.0%
建築請負部門	141	223	364	162	102	200	362	-0.7%	353	2.5%
不動産部門	96	101	197	75	50	135	210	6.4%	203	3.3%
リフォーム部門	26	27	52	25	14	30	55	5.3%	58	-5.5%
海外事業部門	54	22	75	64	11	26	90	19.7%	100	-9.9%
その他	4	13	17	3	4	5	8	-52.8%	10	-22.9%
建材事業	12	11	23	7	6	8	15	-34.8%	18	-16.7%

住宅セグメント（受注の状況、売上高の内訳）

- 建築請負部門の受注高は、集合住宅は比較的順調であるものの、戸建は棟数が大きく減少
- 不動産部門は、分譲マンションの販売戸数が4Qに集中する予定。通期では対前年で増収を予想

(単位：億円、()内は対前年同期比)

		建築請負部門						不動産部門			
		受注		売上高				売上高			
		受注高	受注残	戸建	集合	他	合計	分譲	賃貸	他	合計
2020年度	上期	1,453 (-28.1%)	5,438	1,328	469	81	1,878	309	581	21	910
	下期	1,813 (-8.6%)	5,275	1,366	611	92	2,069	111	608	71	790
	通期	3,266 (-18.4%)		2,693	1,080	174	3,947	420	1,189	91	1,701
2021年度 ^{*1}	上期	2,063 (42.0%)		1,274	510	106	1,890	205	625	31	860
	下期	1,780 (-1.8%)	5,333	1,423	606	116	2,145	247	646	72	965
	通期	3,843 (17.7%)		2,697	1,116	222	4,035	452	1,271	102	1,825
2022年度 ^{*1}	上期	1,912 (-7.3%)	5,481	1,309	555	102	1,966	101	665	45	811
	3Q	723 (-10.8%)	5,256	706	308	68	1,082	80	339	25	444
	下期予想	1,712 (-3.8%)	5,089				2,144	279	685	110	1,074
	通期見通し	3,624 (-5.7%)					4,110	380	1,350	155	1,885

*1 2021年度より「収益認識に関する会計基準」を適用し、一部の取引において売上高及び売上原価の計上基準を変更している。ただし、受注残については旧基準ベースで算出した金額を表示している。

ヘルスケアセグメント（売上高・営業利益・EBITDA）

(億円)

売上高	上期	下期	2021年度	上期	2022年度		2022年度 予想	前期比 増減率	2022年度 前回予想 (2022年11月発表)	前回予想比 増減率
					3Q	下期予想				
ヘルスケアセグメント	2,059	2,100	4,159	2,455	1,286	2,515	4,970	19.5%	5,200	-4.4%
医薬・医療事業	853	888	1,742	989	545	1,011	2,000	14.8%	2,060	-2.9%
医薬事業	448	486	933	536	317	564	1,100	17.8%	1,110	-0.9%
医療事業	406	403	808	453	227	447	900	11.3%	950	-5.3%
クリティカルケア事業	1,205	1,212	2,417	1,466	741	1,504	2,970	22.9%	3,140	-5.4%

営業利益	上期	下期	2021年度	上期	2022年度		2022年度 予想	前期比 増減率	2022年度 前回予想 (2022年11月発表)	前回予想比 増減率
					3Q	下期予想				
ヘルスケアセグメント	343	179	522	258	114	154	412	-21.0%	542	-24.0%
医薬・医療事業	136	83	218	146	79	77	223	2.2%	256	-12.9%
クリティカルケア事業	207	96	303	113	35	76	189	-37.7%	286	-33.9%

EBITDA	上期	下期	2021年度	上期	2022年度		2022年度 予想	前期比 増減率	2022年度 前回予想 (2022年11月発表)	前回予想比 増減率
					3Q	下期予想				
ヘルスケアセグメント	577	441	1,017	572	284					
医薬・医療事業	236	190	426	272	149					
クリティカルケア事業	341	251	592	300	135					

33

ヘルスケアセグメント（医薬事業の主要医薬品売上高）

(売上高の対象地域、単位)	2021年度			2022年度		4-12月 増減額	前年同期比 増減率
	10-12月	4-12月	年間	10-12月	4-12月		
<旭化成ファーマ>							
テリボン (国内、億円)	104	290	382	102	308	18	6.4%
リコモジュリン (")	25	70	87	25	67	-3	-4.9%
ケブザラ (")	21	55	73	26	71	15	27.9%
リクラスト (")	4	10	13	4	11	1	7.4%
ブラケニル (")	16	16	27	14	41	25	154.5%
<Veloxis>							
Envarsus XR (米国、百万ドル)	39	107	142	53	141	34	32.1%

一般名	薬効・分類	適応症	剤型
テリボン	テリバラチド酢酸塩 骨粗鬆症治療剤（副甲状腺ホルモン：PTH）	骨折の危険性の高い骨粗鬆症	注射剤
リクラスト	ソレドロン酸水和物 骨粗鬆症治療剤	骨粗鬆症	注射剤
リコモジュリン	トロンボモデュリンアルファ（遺伝子組換え） 血液凝固阻止剤	DIC（汎発性血管内血液凝固症）	注射剤
ケブザラ	ザリルマブ（遺伝子組換え） 関節リウマチ治療剤	既存治療で効果不十分な関節リウマチ	注射剤
ブラケニル	ヒドロキシクロロキン硫酸塩 免疫調整剤	皮膚エリテマトーデス、全身性エリテマトーデス	錠剤
Envarsus XR	タクロリムス徐放製剤 免疫抑制剤	腎移植	錠剤

ヘルスケアセグメント（医薬事業の研究開発状況）

	開発コード・剤型 (一般名)	薬効・分類	適応症	地域	自社/導入	備考
承認済	AK1820・注、カプセル (イザブコナゾウム硫酸塩)	深在性真菌症治療剤	真菌症	日本	導入	
国内	フェーズⅡ ART-123・注 (トロンボモデュリン アルファ (遺伝子組換え))	血液凝固阻止剤	化学療法誘発性 末梢神経障害	日本	自社	効能追加 日米共同フェーズⅠ 実施中
国内	フェーズⅡ AK1830・経口	慢性疼痛治療剤	変形性関節症に伴う 疼痛 慢性腰痛症に伴う 疼痛	日本	導入	
海外	申請中 HE-69・錠 (ミゾリピン)	免疫抑制剤	ループス腎炎 ネフローゼ症候群	中国	自社	効能追加
海外	フェーズⅢ ART-123・注 (トロンボモデュリン アルファ (遺伝子組換え))	血液凝固阻止剤	凝固異常を伴う 重症敗血症	米国・欧州 他	自社	

探索・基礎研究 成熟化・高齢化社会の中で、健康で快適な生活を送りたいという人びとの願いに応えるために、整形外科や救急・集中治療などの領域を中心に「未だ有効な治療方法がない医療ニーズ（アンメットメディカルニーズ）」の解決に取り組んでいます。自社技術の絶えざる革新と、世界の優れた技術とのコラボレーションを積極的に推進し、世界に通用する新薬の創出を進めています。

主なM&A案件（2021年4月以降）

セグメント	サブセグメント	企業名	事業内容	PL連結開始	買収金額	のれん発生額
住宅	住宅	McDonald Jones Homes Pty Ltd	豪州における注文住宅の建築請負及び分譲住宅の販売	2021年4月1日	191億円	55億円
		Focus社 (Focus Plumbing LLC等5社)	北米における住宅の建築工事	2022年11月1日	358億円 (暫定)	346億円 (暫定)
ヘルスケア	医薬・医療	Bionova Holdings, Inc.	バイオ医薬品製薬企業への製造プロセス開発受託、抗体医薬品GMP製造受託、次世代抗体医薬品GMP製造受託	2022年7月1日	426億円 (暫定)	398億円 (暫定)
	クリティカルケア	Respicardia, Inc.	中枢性睡眠時無呼吸症に対する植え込み型神経刺激デバイスの開発・製造・販売	2021年4月9日	307億円	144億円
		Itamar Medical Ltd.	睡眠時無呼吸症診断製品群等の開発・製造・販売	2021年12月16日	609億円	380億円

トピックス（2022年4月以降）

成長に向けた投資（GG10関連）

太字は今回追加分

- ◆ 旭化成メディカルによる次世代抗体医薬品CDMOの米国Bionova Scientific, LLC買収に関する契約締結（4月）、買収完了（5月）
- ◆ 旭化成エレクトロニクスによる車載アクティブロードノイズキャンセル技術に関するイスラエルSilentium Ltd.との契約締結（5月）
- ◆ 旭化成ファーマによる株式会社アークメディスンとの「選択的エンドセリンA受容体拮抗薬」に関する独占的ライセンス契約締結（6月）
- ◆ 旭化成ファーマによる発作性夜間ヘモグロビン尿症に対する補体C3阻害薬「pegcetacoplan」および慢性肝疾患における血小板減少症改善薬「avatrombopag」に関する独占販売契約締結（9月）
- ◆ 旭化成ホームズによる住宅の建築工事を行う米国Focus社の買収（11月）
- ◆ 水素製造用アルカリ水電解パイロット試験設備の着工（11月）
- ◆ **旭化成メディカルによる次世代抗体医薬品CDMOの米国Bionova Scientific社における能力増強の決定（2月）**

構造転換や既存事業強化の取り組み

- ◆ 会社分割（簡易吸収分割）によるフォトマスク用ペリクル事業の三井化学株式会社への承継を決定（5月）
- ◆ 旭化成グループのCelgardがAmerican Battery Factoryと戦略的提携契約を締結（8月）
- ◆ 中国での樹脂コンパウンド製造工場の生産能力増強（10月）

経営基盤強化

- ◆ 旭化成グループ共通のデータマネジメント基盤「DEEP」の構築を発表（5月）
- ◆ 機能樹脂製品、合成ゴム・エラストマー製品のカーボンフットプリントデータ提供を開始（5、6月）
- ◆ 2021年に引き続き「DX銘柄2022」に選定（6月）
- ◆ 株式会社日本政策投資銀行の「DBJ環境格付」融資で最高ランクの格付を取得（8月）
- ◆ ESG投資のための指数「FTSE4Good Index Series」「FTSE Blossom Japan Index」構成銘柄に継続採用（8月）
- ◆ **国際持続可能性カーボン認証「ISCC PLUS認証」取得（11月）**
- ◆ **従業員の学びのプラットフォーム「CLAP（Co-Learning Adventure Place）」の運用を開始（1月）**

【凡例】

- ◆ : マテリアル
- ◆ : 住宅
- ◆ : ヘルスケア
- ◆ : 全社

四半期売上高推移（2019年度以降）

(億円)

	2019年度<組替後>				2020年度<組替後>				2021年度<組替後>				2022年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q予想
マテリアルセグメント	2,746	2,922	2,795	2,604	2,080	2,368	2,710	2,890	2,796	2,963	3,152	3,189	3,394	3,394	3,270	3,272
環境ソリューション事業	1,168	1,241	1,187	1,047	890	951	1,065	1,237	1,191	1,290	1,373	1,372	1,499	1,414	1,368	1,390
うち 基礎マテリアル事業	755	779	768	648	537	559	644	771	724	823	902	900	1,001	873	887	910
モビリティ&インダストリアル事業	686	671	645	632	391	556	716	768	754	765	807	896	925	997	940	969
ライフソリューション事業	893	1,011	963	925	799	859	927	883	850	905	971	919	969	983	960	908
うち デジタルソリューション事業	273	304	307	285	280	281	307	275	286	306	313	309	342	323	299	276
マテリアル共通	0	0	-0	0	-0	3	2	2	0	3	2	2	2	2	2	5
住宅セグメント	1,414	1,855	1,525	2,115	1,478	1,848	1,702	1,771	1,951	1,979	2,183	2,112	2,066	2,138	2,301	2,424
住宅	1,306	1,743	1,419	2,025	1,391	1,753	1,610	1,694	1,872	1,886	2,085	2,022	1,975	2,035	2,195	2,325
建材	108	112	107	90	88	95	92	76	79	93	98	90	92	103	107	99
ヘルスケアセグメント	827	849	835	867	957	1,092	1,030	1,000	1,058	1,001	1,070	1,030	1,214	1,241	1,286	1,229
医薬・医療	343	358	323	309	365	378	407	394	428	426	468	421	505	485	545	466
クリティカルケア	484	491	512	558	592	714	623	606	630	575	603	609	710	756	741	763
その他	34	39	43	45	36	35	30	33	30	33	32	35	30	35	34	41
合計	5,021	5,666	5,199	5,631	4,552	5,342	5,473	5,694	5,834	5,976	6,437	6,366	6,704	6,808	6,892	6,966

四半期営業利益推移（2019年度以降）

(億円)

	2019年度<組替後>				2020年度<組替後>				2021年度<組替後>				2022年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q予想
マテリアルセグメント	245	299	211	120	80	110	209	230	311	275	298	176	268	139	81	-75
環境ソリューション事業	95	139	89	14	19	44	82	130	143	145	138	62	102	24	-26	-102
うち 基盤マテリアル事業	84	102	58	-3	-10	20	42	89	82	108	100	64	83	12	-42	-68
モビリティ&インダストリアル事業	63	64	40	35	-33	8	39	63	82	50	54	71	52	39	5	19
ライフソリューション事業	76	99	83	67	82	66	90	55	102	89	108	49	121	75	77	13
うち デジタルソリューション事業	18	34	32	35	31	28	38	36	43	46	46	34	67	38	32	14
マテリアル共通	11	-3	-1	4	12	-8	-3	-18	-16	-11	-2	-6	-6	1	25	-6
住宅セグメント	99	228	133	265	106	209	164	152	151	181	223	173	153	183	188	216
住宅	88	213	121	252	98	196	155	148	147	173	213	173	150	179	181	215
建材	12	14	17	10	10	13	11	0	4	8	10	0	3	4	6	2
ヘルスケアセグメント	126	133	99	77	155	199	204	118	205	138	159	20	148	110	114	39
医薬・医療	68	72	38	1	57	51	88	34	76	59	90	-7	100	45	79	-1
クリティカルケア	59	61	61	77	98	148	117	84	129	78	69	27	48	65	35	41
その他	5	9	10	12	8	10	9	15	5	12	9	15	6	12	8	7
消去又は全社	-63	-64	-67	-104	-48	-61	-58	-92	-67	-79	-80	-98	-81	-79	-86	-101
合 計	413	604	385	370	301	467	527	423	605	526	609	286	494	364	305	87

注記

- EBITDA = 営業利益 + 減価償却費（有形、無形、のれん）
- 2021年度より「収益認識に関する会計基準」を適用し、一部の取引において売上高及び売上原価の計上基準を変更している。
- セグメント別の営業利益は各セグメント内の事業間取引の消去を含んでいるため、事業別の営業利益を単純合算した数字とは一致しない。
- <組替後>と表示している箇所では、過年度の実績について2022年度の開示区分変更を反映した数値を記載している

IRカレンダー

**2022年度決算
決算発表予定日**

2023年5月10日（水）

AsahiKASEI

Creating for Tomorrow

私たち旭化成グループの使命。

それは、いつの時代でも世界の人びとが“いのち”を育み、
より豊かな“くらし”を実現できるよう、最善を尽くすこと。

創業以来変わらぬ人類貢献への想いを胸に、

次の時代へ大胆に伝えていくために一。

私たちは、昨日まで世界になかったものを創造し続けます。

